

昭和六十三年現代宗教研究所事業計画案

1、教化研究会議

①第二十一回中央教化研究会議開催

- (イ) 期日 九月六日(火)・七日(水) 一泊二日
- (ロ) 会場 池上本門寺・朗峰会館
- (ハ) 管区教研運営委員参加

(ニ) 分科会制で運営。現宗研スタッフにて内容を協議し、現宗研全体運営会議にて企画・運営など要綱を決定する。

②教区教化研究会議の開催運営

- (イ) 十教区にて開催を推進
- (ロ) 中央教研のテーマを企画し、教化上における種々な問題点を検討しつつ、統一目標に向かって総弘通運動の推進と施策を図る。
- (ハ) 中央教研参加の管区運営委員にて、地域の独自性を加味し、中央教研のテーマにそいつつ、企画・準備・運営に取り組む。

2、研究部門

(イ) 日蓮教学思想の現代化。中央・地域の教研会議にて提示される教学の問題について、さらに教研などを通して考えていく。

(ロ) 教化学研究。教化学研究集会を年二回開催し、教化の在り方、問題点を発表してもらい、回を重ねることによって多くの教化研究・資料を収集し、まとめて情報を提供する。

(ハ) 日蓮教義・教団史研究。法華経・日蓮聖人研究セミナーを開催する。昨年研究会を持った、教団史研究懇談会をさらに進め、教団のあるべき方向を研究模索していく。

(ニ) 年来のテーマ「現代社会の諸問題と日蓮宗教化」をまとめ編集して教化資料として提供していく。

(ホ) 新宗教の研究。現代宗教研究セミナーを開催する。プロジェクトチームにて分担テーマのまとめ

にむけて進める。

- (ハ) お題目総弘通運動研究プロジェクト。現宗研内運動研究会にて、昭和六十三年年度運動計画について検討する。信行会活動を研究し、信行会づくりの手引書の作成を進める。

3、調査部門

- (イ) 仏教各宗教化関係研究機関連絡協議会への参加。
- (イ) 寺院調査プロジェクトにて、過疎寺院調査の総括を行ない、これに関しての座談会を開く。
- (ロ) 都市の中の過疎、人口過密の無寺院地域の宗教事情など都市部における寺院調査を行なう。
- (ハ) 信行会の実際を調査し、手引書に資する。
- (ニ) 新宗教教団を抽出して、その状況を实地調査する。

4、資料部門

- (イ) 日蓮宗教化センターの実動にむけて働きかける。
- (ロ) 地域の教化センターとの連絡を密にして資料の交換を図っていく。
- (ハ) 必要図書を購入し整理し、目録作成をめざす。

5、会 議

- (ニ) 各種教化資料を収集、保管する。
 - (ホ) 「現代宗教研究」第二十三号の発行。
 - (ハ) 昭和六十二年度、日蓮宗年次表の作成。
 - (ト) 教化資料シリーズの発行。
- 顧問会議・囑託会議・研究員会議の開催。